

倶多楽の火山活動解説資料（平成28年10月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

11月5日23時20分過ぎ（期間外）から大正地獄において小規模な熱湯噴出が発生しました。その後も間欠的に噴出が継続しています。この現象は局所的なものあり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1～3、図4-①）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

11月5日23時20分過ぎ（期間外）から、北海道大学が大正地獄付近に設置した地震計において熱湯噴出によると考えられる震動波形を観測し、遠望カメラでも大正地獄から平常時より多い噴気を観測しました。

11月6日及び7日に実施した現地調査では、大正地獄では、熱湯の噴出が断続的に発生しており、一時的に高さが最大6～7mまで上がっているのを確認しました。また、大正地獄周辺約30mの範囲には噴出に伴うと考えられる泥が飛散した痕跡を確認しました。なお、日和山山頂爆裂火口や地獄谷の状況には特段の変化はありませんでした。

大正地獄では、今回と同様の熱湯噴出は過去にも度々みられており、最近では2007年から2011年にかけて間欠的に発生しました。これらの熱湯噴出は局所的なものであり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

・ 地震及び微動の発生状況（図4-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

なお、大正地獄からの熱湯噴出の発生後も地震及び微動の発生状況に特段の変化は認められません。

・ 地殻変動の状況（図4-③）

GNSS連続観測¹⁾では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平26情複、第658号）。

今回の火山活動解説資料（平成28年11月分）は平成28年12月8日に発表する予定です。



図 1 倶多楽 大正地獄の状況
（図 2 中の①から南西方向に撮影）
・熱湯の噴出がみられます

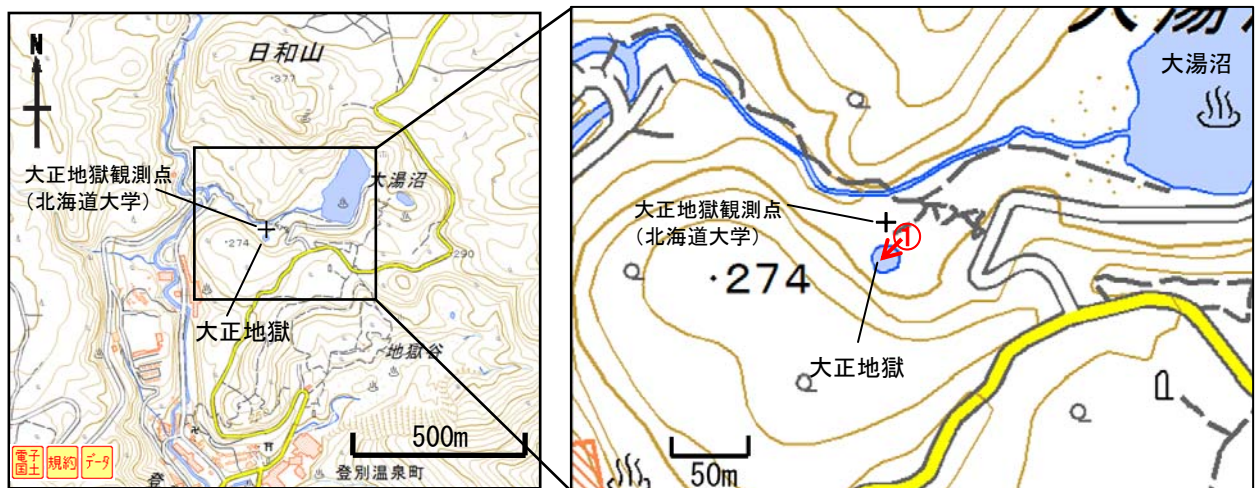


図 2 倶多楽 大正地獄周辺図と写真の撮影位置



図 3 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（414m山遠望カメラによる）
・左：11月5日 23時47分頃の状況：大正地獄から平常時より多い噴気を確認しました
・右：10月25日の状況：日和山山頂爆裂火口の噴気活動は低調に経過しました

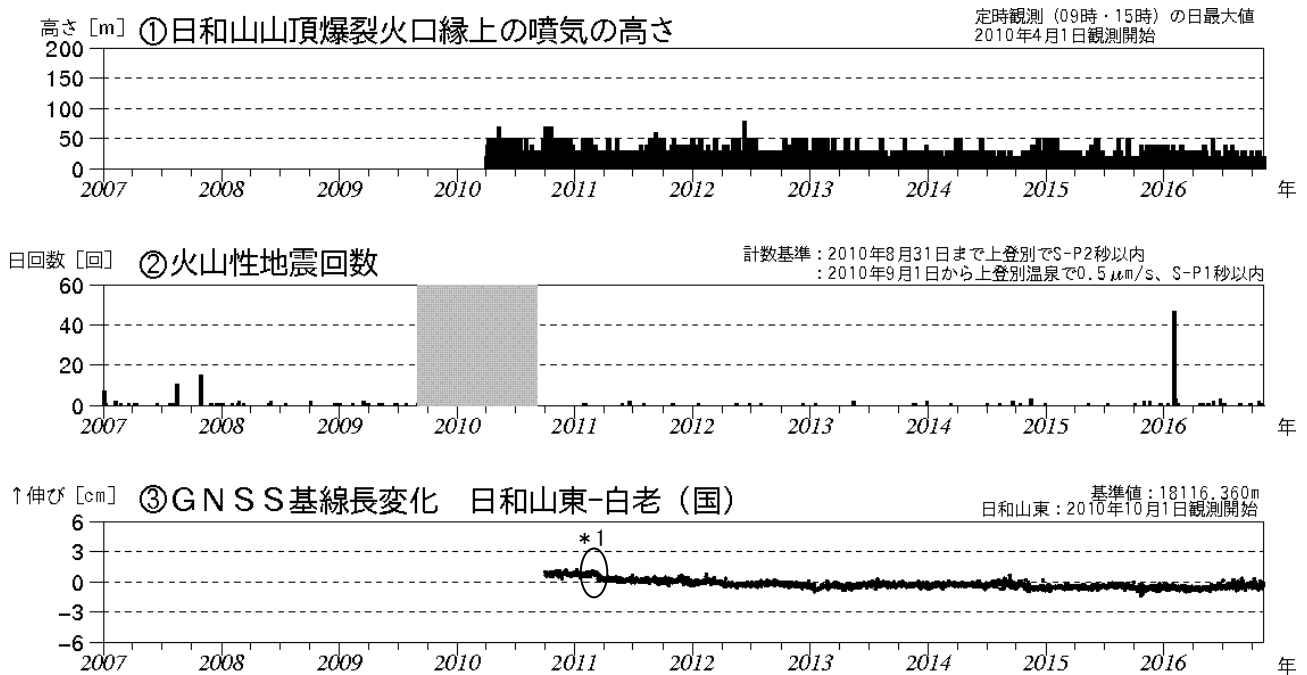


図 4 倶多楽 火山活動経過図（2007年 1 月～2016年11月 6 日）

- ・②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します
- ・③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています
- ・(国)：国土地理院
- * 1：楕円内の変動は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響によるものであり、火山活動によるものではありません

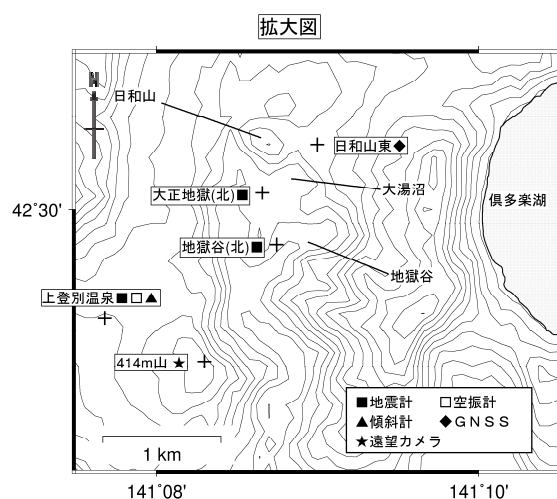
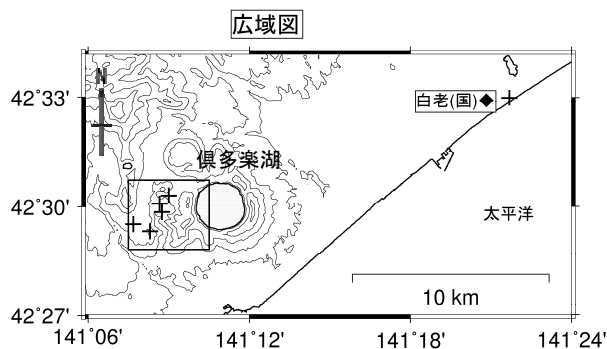
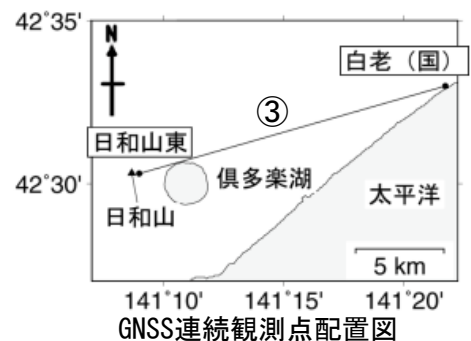


図 5 倶多楽 観測点配置図

- 広域図内の口は拡大図の範囲を示します
- +印は観測点の位置を示します
- 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
- (国)：国土地理院
- (北)：北海道大学